

IV 教科別の課題と分析

1 小学校 国語

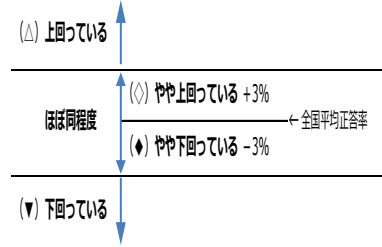
設問別調査結果 [小学校 国語A：主として知識]

分類・集計結果

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	◆	72.4
	書くこと	3	◆	72.2
	読むこと	2	◆	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	12	◆	73.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0		
	話す・聞く能力	1	◆	72.4
	書く能力	3	◆	72.2
	読む能力	2	◆	68.5
	言語についての知識・理解・技能	12	◆	73.7
問題形式	選択式	7	◆	66.6
	短答式	8	◆	78.5
	記述式	0		

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

記号の意味



※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	札幌市	全国(公立)	札幌市	全国(公立)
1- (1)	漢字を読む (道路の標識を見る)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				5-6 (1)ウ (ア)	○	○	◇	91.7	1.9	1.7	
1- (2)	漢字を読む (街灯がつく)		5-6 (1)ウ (ア)	○	◆	87.0	2.9	2.5					
1- (3)	漢字を読む (塾いよく走り出す)		5-6 (1)ウ (ア)	○	◇	74.4	1.4	1.5					
1二 (1)	漢字を書く (料理をのせたさらを運ぶ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				5-6 (1)ウ (ア)	○	◆	97.8	0.9	0.6		
1二 (2)	漢字を書く (勝利をいねう)		5-6 (1)ウ (ア)	○	▽	59.3	13.2	6.8					
1二 (3)	漢字を書く (かぜをよぼうする)		5-6 (1)ウ (ア)	○	▽	77.4	11.5	7.2					
2-	故事成語の使い方として適切なものを選択する (五十歩百歩)	故事成語の意味と使い方を理解する				3-4 (1)ア (イ)	○	▽	55.8	0.4	0.3		
2二	故事成語の使い方として適切なものを選択する (百聞は一見にしかず)		3-4 (1)ア (イ)	○	◆	49.9	0.6	0.5					
3	情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する	情景描写の効果を捉える		3-4 オ		5-6 (1)イ (ウ)	○	◆	58.7	0.2	0.2		
4	新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する	新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える				5-6 ウ	○	◆	71.7	0.3	0.3		
5	物語の一部に入る適切な人物の名前を書く	物語の登場人物の相互関係を捉える				5-6 エ	○	◆	65.3	0.7	0.5		
6-	「～たり、…たり」という表現に直して書く	複数の事柄を並列の関係で書く		5-6 オ		5-6 (1)イ (キ)	○	◆	74.9	6.5	5.7		
6二	文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する	仮定の表現として、適切なものを捉える		5-6 オ		5-6 (1)イ (キ)	○	◆	83.1	2.0	2.0		
7	話合いの記録の仕方として適切なものを選択する	話合いの観点に基づいて情報を関係付ける		5-6 ア			○	◆	72.4	1.9	2.1		
8	言葉の意味と使い方を捉え、適切なものを選択する (はかる)	国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する				3-4 (1)イ (カ)	○	◆	74.3	2.4	2.7		

(Δ)上回っている (◇)ほぼ同程度だがやや上回っている (○)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▽)下回っている

【設問分析】

1 漢字を読んだり書いたりする

①は、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみるものである。設問一は漢字を読むことについて、設問二は漢字を書くことについて、それぞれ3問ずつで構成されている。

【設問一】漢字を読むこと

- ・(1)「標識」、(3)「勢い」をそれぞれ文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。(3)「勢い」の主な誤答例は「いきお(い)」を「いきよ(い)」と解答しているものである。

【設問二】漢字を書くこと

- ・(1)「皿」は、全国の平均正答率と比較して、やや下回っているほか、(2)「祝う」、(3)「予防」については、全国の平均正答率を下回っている。(2)「祝う」の主な誤答例は「ネ(しめすへん)」を「ネ(ころもへん)」にして解答しているもの、似たへんやつくりをもつ「税」や、同じ発音をする「岩」と書いているものがある。(2)(3)については、無解答率が高く、特に(2)は、全国平均の無解答率を大きく上回っている。

「漢字を書くこと」については、依然として課題がある。習得した漢字を、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにすることが重要であり、そのためには、習得した漢字の音訓、部首、点画などについて、同音異義語や類似した字形などと比較しながら、正しい書き方を日常的に確認するような習慣を付けることが大切である。その上で、文や文章の中で正しく使用しているかどうかを自分で評価し、漢字を含む語彙の拡充を図るように指導することが重要である。

2 故事成語の意味と使い方を理解する

②は、故事成語の意味と使い方を理解することができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- ・故事成語「五十歩百歩」の使い方として適切なものを選択する設問である。全国の平均正答率を下回っている。

【設問二】

- ・故事成語「百聞は一見にしかず」の使い方として適切なものを選択する設問である。全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で起こる出来事や、その様子を故事成語を用いて表すことは重要である。そのためには、長い間使われてきた故事成語に興味をもち、その意味を調べてカードに記録するなど、先人の知恵や教訓、機知に触れることができるように指導することが大切である。その上で、実生活の中で意図的に活用する機会を設けるなどして、計画的に指導することが重要である。教師は様々な学習活動の場面で故事成語やことわざ、慣用句を意図的に使い、児童の模範となることが重要である。

3 物語を創作する

③は、情景描写の効果を捉えることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

物語を創作する上で、物語の表現の特徴とその効果について捉えることは、重要である。そのためには、物語などの文学的な文章を読むことの授業において、描写の工夫(行動や表情、会話(内言)、風景など)の効果を理解することができるように指導することが大切である。物語を創作する活動においては、低学年の段階から系統的・累積的な指導を行うことが大切である。その際、登場人物の心情などについて、直接的に描写されているものだけでなく、暗示的に表現されているものも捉えることができるように指導することが重要である。

4 新聞の投書を読む

④は、新聞の投書を読み、表現の仕方を捉えることができるかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

投書を読むときには、新聞や雑誌などに読者がテーマや身近な問題について考えたり感じたりしたことを述べた意見文であるといった投書の特徴を理解することが重要である。また、投書の書き方や、根拠となる事実や資料の使い方など、書き手の工夫を捉えながら読むことができるようにすることも大切である。そのためには、書き手の意見を効果的に伝えるための内容構成や書き出し、文末表現などの表現の工夫を捉えることができるように指導することが重要である。

投書には、出来事やテーマについて賛成や反対の立場から意見を述べたものもあることから、書き手の意見を捉えた上で、自分の考えを明確にしながら読むことが重要である。そのためには、書き手の立場に立ち、理由や根拠となる事実を明確にできるように指導することが大切である。具体的な指導としては、複数の投書の中から、興味や関心をもった投書を選び、書き手の意見や理由、根拠となる事実を明確にした上で自分の考えを書く事例が考えられる。

5 登場人物の相互関係を捉える

⑤は、物語の登場人物の相互関係を捉えることができるかどうかみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

物語などの文学的な文章は、登場人物の人物像を捉え、相互関係を明確にしながら読むことが重要である。そのためには、中心人物を押さえ、その人物と周囲の主な登場人物について、行動や会話文、情景描写などに着目しながら、それぞれの人物像が分かる言葉をカードに書き出し、整理するなどの指導が考えられる。その際、その中心人物を取り巻く登場人物がその中心人物をどのように見ているのか、物語の進行に伴ってどのように変化していくのかに着目できるようにすることが大切である。

具体的な指導としては、「家族」や「同級生」のように、物語を設定する上での実体的な関係や、「仲間」や「好敵手」のような構造的な関係について、カードを並べ換えたり、関係図に表したりすることが考えられる。

6 適切な表現にして書く

⑥は、文や文章の構成を理解し、適切な表現にして書くことができるかどうかをみるものであり、二つの設問から構成されている。

【設問一】

・複数の事柄を並列の関係で書くことができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】

・仮定の表現として、適切なものを捉えることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

今回の出題形式のように、「～たり」が複数の内容を並べるときに使う言葉であるという知識を与えた上で、指定する箇所について「～たり、…たり」という表現形式にすることを具体的に示すことによって適切な表現に書き直すことができるものと考えられる。

文や文章の構成を整えて書くためには、語句と語句との係り方や照応の仕方に気付き、文と文とのつながりの明確さを意識することが重要である。そのためには、語句の意味を正しく捉えることや、接続語の役割について理解できるように指導することが大切である。

7 情報を関係付ける

7は、話合いの観点に基づいて情報を関係付けることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

話合いを行う際、目的や意図を明確にした上で観点を設定すること、その観点に沿って意見を整理していくことなどが重要である。そのためには、まず必要と考える様々な観点を出し合う中から、目的や意図に応じた適切な観点を選択することが大切である。それから、出された観点と意見とを関係付けるために図で分類したり、表にまとめたりすることができるように指導することが重要である。

8 国語辞典を使って調べる

8は、国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解することができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても、国語辞典を使って言葉の意味や使い方などを調べる習慣を付け、言葉についての関心を高めることが重要である。そのためには、辞書の仕組みや使い方など国語辞典の特徴を理解することが大切である。具体的な指導としては、実際に調べた言葉に付箋を貼ったり、他の辞書の用例を付け加えたりして、自分なりに使いやすい辞書へと手を加えていくことが大切である。とりわけ、いつでも国語辞典を手にとることができるような言語環境を整えておく必要がある。

また、言葉の意味を知っているだけではなく、実際の場面や文脈に合わせて言葉を適切に使い分けられるようにすることが重要である。そのためには、多義語や同音異義語などの意味や使い方の紛らわしい言葉を取り上げ、適切な言葉の使い分けができるように指導する必要がある。具体的な指導としては、例えば複数の国語辞典や教科書等から用例を集めて「言葉の使い分け辞典」を作成してまとめるなど、文脈に応じて適切な言葉の使い分けができるように多くの用例を知り、語感や言葉の使い方を意識させるようにすることが大切である。

設問別調査結果 [小学校 国語B：主として活用]

分類・集計結果

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	◆	51.2
	書くこと	3	◆	34.4
	読むこと	2	◆	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	12	◆	69.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	◆	34.4
	話す・聞く能力	1	◆	51.2
	書く能力	3	◆	34.4
	読む能力	2	◆	57.3
	言語についての知識・理解・技能	12	◆	69.8
問題形式	選択式	7	◆	62.1
	短答式	8	◆	67.7
	記述式	0	◆	34.4

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

記号の意味

(△) 上回っている

ほぼ同程度 (◇) やや上回っている +3% ← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3%

(▼) 下回っている

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	札幌市	全国(公立)	札幌市	全国(公立)
1一	司会④の発言の内容をまとめて書く	目的に応じて、話合いの観点を整理する	5-6オ					○	◆	65.2		9.5	7.9
1二	林さん⑤の質問の狙いとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	5-6エ					○	◆	60.2		4.0	3.5
1三	大野さん②の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く	立場を明確にして、質問や意見を述べる	5-6エ	5-6ウ				○	◆	28.3		5.6	5.0
2一	付箋の内容を関係付けて、原田さんの疑問を書く	付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える			5-6ウ			○	◆	71.9		10.1	8.2
2二	付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く	5-6ウ	5-6ウ				○	▼	26.9		8.9	7.4
2三	疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く	課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む			5-6イ			○	◆	66.0		5.0	4.3
3一(1)	【詩1】の表現の特徴として適切なものを選択する	二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える		5-6エ	5-6(1)イ(カ)			○	◆	80.4		5.0	4.4
3一(2)	【詩2】の表現の特徴として適切なものを選択する			5-6エ	5-6(1)イ(カ)			○	◆	59.2		6.2	5.5
3二	【詩2】に対する山田さんの解釈として適切なものを選択する	詩の解釈における着眼点の違いを捉える			3-4オ			○	◇	48.5		19.7	19.8
3三	【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く	二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く	5-6ウ	5-6エ				○	◆	48.1		28.3	26.0

(△) 上回っている (◇) ほぼ同程度だがやや上回っている (○) 全国平均と同じ (◆) ほぼ同程度だがやや下回っている (▼) 下回っている

【設問分析】

1 立場や意図をはっきりさせながら討論する(卒業文集)

1は、目的や意図に応じて、計画的に討論することができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- ・目的に応じて、話合いの観点を整理することができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】

- ・質問の意図を捉えることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問三】

- ・立場を明確にして、質問や意見を述べることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問三】については、全国の平均正答率が低い状況であり、札幌市も同様の傾向にある。今後は、根拠を明確にして話し合うことについての改善が必要である。本設問における根拠は、相手の発言であると捉えることができる。相手の発言内容を引用して示すことは、質問や意見の根拠の一部になる。自らの論理展開を円滑にするために、適切に引用することができるよう領域を関連付けて指導することが重要である。具体的な指導としては、原文や話の内容を正確に引用することや、引用する部分と自分の考えとの関係などを明確にすることなどが大切である。また、書く際には、引用する部分をかぎ（「」）で括ることや、引用した文章等の出典について明記すること、引用する部分が適切な量になることなどについて、具体的に指導することが大切である。

2 科学に関する本や文章などを効果的に読む（動物の鼻）

②は、科学に関する本や文章を効果的に読み、分かったことや疑問に思ったことを関係付けながらまとめて書くことができるかどうかをみるものであり、3つの設問で構成されている。

【設問一】

- ・付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉えることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】

- ・分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながら条件に合わせてまとめて書くことができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率を下回っている。

【設問三】

- ・課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読むことができるかどうかをみる問題であり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】については、全国の平均正答率が低い状況であり、札幌市も同様の傾向にある。必要な情報を取り出し、分類したり関係付けたりした上で全体を通して分かったことや考えたことを一定のまとまった文章にして書くことが重要である。その際、構成や記述などについて、条件を示すことは有効である。今回の設問形式として、記述の際のモデルを示す工夫がされており、このことは、記述の内容や仕方についての具体的な指導のポイントとなる。今後は、取り出した複数の情報を関係付ける手順や方法について条件を示すなど、丁寧な指導が必要である。

3 詩を比べて読む（まど・みちお「タンポポ」「たんぽぽさんが よんだ」）

③は、二つの詩を比べて読み、内容や表現の工夫を捉えるとともに、それらについて自分の考えを書くことができるかどうかをみるものであり、設問一（1）（2）、設問二、設問三から構成されている。

【設問一】

- ・二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉えることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】

- ・詩の解釈における着眼点の違いを捉えることができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問三】

- ・二つの詩を比べて読み、条件に合わせて自分の考えを書くことができるかどうかをみるものであり、全国の平均正答率と比較して、やや下回っているほか、

【設問三】については、無解答率が高かった。複数の詩を比べて読み、自分の考えを書くためには、表現の工夫や詩の捉え方を観点にしてそれぞれの詩の特徴を理解し、自分なりに解釈をすることができるように指導することが大切である。そのためには、複数の詩の共通点や相違点を明らかにし、自分なりの解釈や考えを詩を読むときの観点を基にして明確にして書くことが考えられる。

小学校 国語					
児童生徒質問紙【教科に関する設問】	年度	【1】	【2】	【3】	【4】
国語の勉強は好きですか	H25	24.1	34.7	26.9	14.3
	H26	26.1	36.0	23.9	13.9
国語の勉強は大切だと思いますか	H25	62.7	27.6	6.6	3.1
	H26	64.3	26.9	6.4	2.3
国語の授業の内容はよく分かりますか	H25	33.4	46.7	15.3	4.5
	H26	34.2	45.6	15.9	4.2
読書は好きですか	H25	52.0	22.5	14.8	10.6
	H26	53.7	22.2	14.3	9.6
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	H25	51.1	34.1	10.6	4.1
	H26	50.6	34.7	11.2	3.4
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	H25	16.9	37.0	35.4	10.6
	H26	18.0	38.9	33.9	9.0
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	H25	17.7	36.3	34.1	11.9
	H26	19.7	37.6	31.7	10.8
国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	H25	27.0	40.3	25.3	7.3
	H26	30.4	39.9	23.1	6.5
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	H25	32.9	40.2	20.5	6.4
	H26	36.8	39.5	18.6	4.9

【1】当てはまる

【2】どちらかと言えば、当てはまる

【3】どちらかと言えば、当てはまらない

【4】当てはまらない

(単位は%)

<設問分析>

- 「国語の勉強は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が62.1%となっており、全国平均を2.7ポイント上回っている。25年度の調査では、肯定的に回答した割合は58.8%である。今後とも、児童の興味関心を引き出し、意欲を高める指導をさらに工夫していくことが求められる。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が91.2%となっており、全国平均を0.5ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。25年度の調査では、肯定的に回答した割合は90.3%である。今後とも、言語活動の充実を図り、児童が主体的に学び、実生活に生きて働くような学習を工夫することによって、国語の学習の意義や価値を実感するような授業を行うことが求められる。
- 「国語の授業の内容はよく分かりますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が79.8%となっており、全国平均を0.4ポイント下回っている。25年度の調査では、肯定的に回答した割合は80.1%である。今後は、児童が意欲と見通しをもって学ぶことができるような学習過程、基礎的・基本的な指導事項の習熟とともに、児童一人一人の実態に応じた指導の充実を図ることが求められる。
- 「読書は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が75.9%となっており、全国平均を2.8ポイント上回っている。25年度の調査では、肯定的に回答した割合は74.5%である。札幌市では、一斉読書の推進に取り組んでおり、小学校での実施率は100%である。今後とも、国語の授業だけではなく、様々な機会を通して、児童の読書活動の一層の促進に取り組むことが求められる。
- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が85.3%となっており、全国平均を2.1ポイント下回っている。25年度の調査では、肯定的に回答した割合は85.2%である。今後、日常生活に生きて働く言語活動を通じた指導の充実を図るとともに、児童が国語の学習の有用性を実感できる指導を工夫・改善していくことが求められる。

- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が56.9%となっており、全国平均を4.5ポイント下回っている。25年度の調査では、肯定的に回答した割合は53.9%である。今後は、資料から得た事実や情報を基にそれらに関係付けながら自分の考えを明確にし、話したり書いたりする言語活動を工夫することが求められる。
- 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が57.3%となっており、全国平均を1.3ポイント下回っている。25年度の調査では、肯定的に回答した割合は54.0%である。今後は、目的や意図に応じて児童が自分の考えをもち、さらに相手に分かりやすく伝えるための工夫をしながら話したり書いたりすることができるような言語活動を位置付けていくことが一層、求められる。
- 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が70.3%となっており、全国平均を0.6ポイント下回っている。25年度の調査では、肯定的に回答した割合は67.3%である。今後は、目的や意図に応じて、児童が自分の考えをもち、その理由を書いたり話し合ったりする言語活動を通じた授業を工夫することが求められる。
- 「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が76.3%となっており、全国平均を0.5ポイント上回っている。25年度の調査では、肯定的に回答した割合は73.1%である。「読むこと」の授業において、目的に応じて、事実と意見を区別したり、段落相互の関係を意識したりしながら読む指導の一層の充実が求められる。